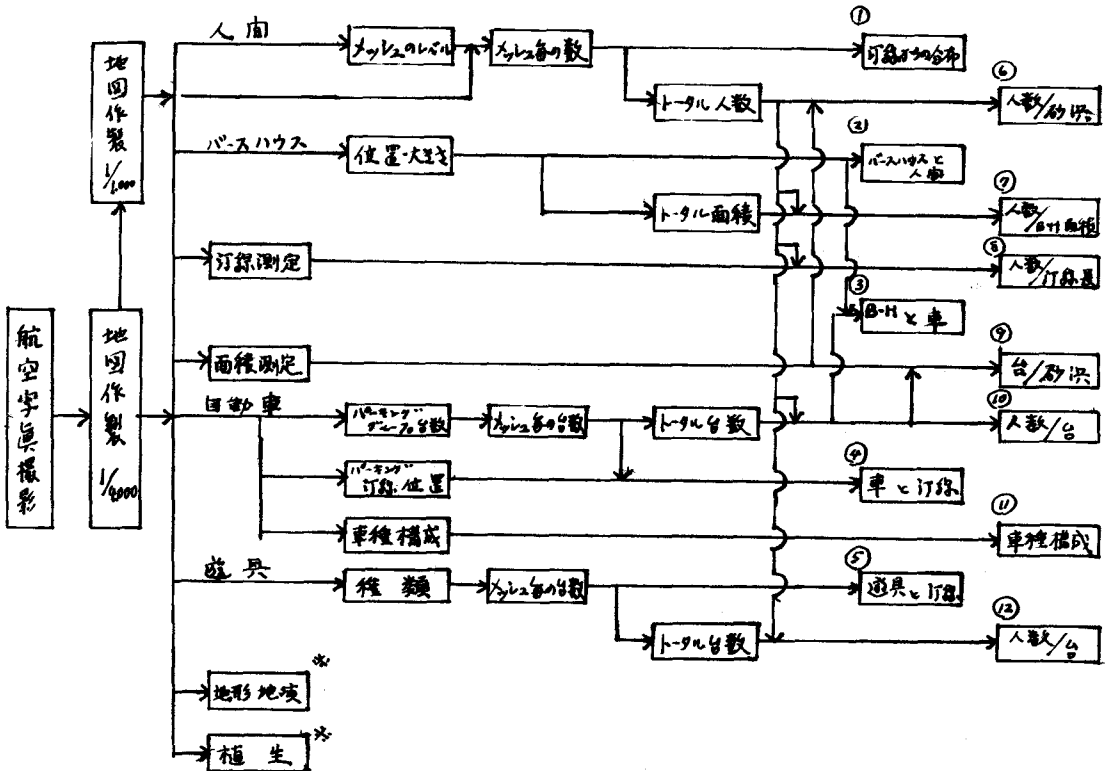


東京工業大学 正員 ○ 鈴木 忠義
運輸省 " 金子 彰

目的 2万4,000軒の海岸線をもつわが国は、古くから海岸線を工夫して利用し、わが国の発展に役立ててきた。その利用はよりプラスを求めて 生活・産業・交通・人間 マイナスをゼロに近づけてゆく 保全 などであった。海岸と人間を結びつける 栄養・海水浴場 老若くちうおこなわれ てきたが、芸術、技術などの発展により、これまで経験したことの新しい新しい海岸のレクリエー ション問題が発生してきている。このような背景のもとに、海岸の自然条件にたいし、人間がどの ように対応しているか、また簡単な施設のうちで道路、駐車場、更衣休憩所（バス・ハウス）などと人間の 行動と基本的にはいえることは、海岸のレクリエーションへの利用の計画に重要であるという観点から 分布と密度（厚単位）に重点をおき、この研究をおこなった。なおこの研究は運輸省港湾局、アジヤ 航測 KK との共同でおこなわれ、判読と分析をわれわれが担当した。

測定 人間と海岸に親しむシーズンとねうの次の図と表により測定をおこなった。

図-1 作業の手順 (①～⑫は結果)



測定と判讀

分析

分布

原單位

★ 今日は判読と消墨

表-1 航空写真撮影の概要

航測撮影年月日	昭和44年8月10日(日曜日) 11時~13時 晴天
撮影高度	608m 基準面 0m
撮影縮尺	1:4000
カメラ	RC-8 No. 299 f:152.72mm
飛行機	JA 5073
撮影場所	神奈川県、千葉県、茨城県の主要海岸レクリエーション地 62地点
備考	No. 7930~10,8380 計410枚 アビア航測KK撮影

ここに報告するのは神奈川県内の三浦海岸、釧崎、小網代湾、由比ヶ浜、大磯ロングビーチの5箇所、40枚の写真を使用した。

判読 人間の判読については、厳密なウレシトが困難なため、陸上は20m、海上は40mのメッシュを設定し、次のように3段階に決定し、測定をすすめる。

レベル1.	$0\% / 400m^2$		
" 2	$15.1\% / 400m^2$	$26.4\% / 100m^2$	このような考え方が、図-1におけるメッシュレベルである。
" 3	$84.6\% / 400m^2$	$4.7\% / 100m^2$	

自動車、ボートなど、比較的大きなものについては、直接判読するが、このメッシュ法を用いた。

結果 これまでの解析の結果、目的とした測定結果は、図-1の分布①~⑤ 空地(原単位)⑥~⑩の順序により以下に示す。

① 汀線からの人間の分布については、20m、40m、60mの間で90%の人々が集まっている。このことは、砂浜における有効巾は60mとみえられ、又はボードウォークなどの施設によりバスハウスその他施設施設などへの接点空間として考える必要のゆえである。

② 更衣室を中心とした左右の分布は平均値として456mが測定されたが、これまでの人間の行動などから、妥当な数値と考えられる。

③ B.H.と駐車場は理想的な設計がなされておらず、580mという測定値がどこまで意味をもちかは疑問である。

④ 汀線と駐車場の位置は理想に近い三浦海岸と、由比ヶ浜とでは大差がある。三浦の各地点の平均値は105.6mであるが、道路、路外駐車場などの設置で決定される。

⑤ 主としてボートの測定値であるが、汀線より120m以内(28%)以外として沖にまで進出するものもある。

⑥⑦⑧⑨ 測定値としては、 $0.06\% / m^2$ 、 $0.4\% / m^2$ 、 $2.76\% / m^2$ 、 $0.008\% / m^2$ などを得られたけれども、最適な値、混雑度などが解明されていないので、これらの値の意味付けは困難である。

⑩⑪⑫ 測定値としては、5.2% (大磯ロングビーチ)、1.4% (バスハウス) 34.6% という値が得られたが、一般の値より⑩⑪は高くなり、⑫については低い。

今後の課題 最適値を求めること、資源探査、撮影の方法、男女比、水中での人間の分布、レクリエーション活動の解析などが残されており、今回の測定値の再検討もあわせて考えていきたい。